

神社港歴史散策ガイドマップ



一緒に歩いてみませんか？



① 勢田川と一色大橋

全長 7,300m、最大幅 168m。水源は勢田町にあり、一色大橋が 22 番目の橋です。この橋ができたことで昭和 49 年 2 月 10 日、渡し船が廃止されました。

② 石の分銅

この分銅は、茶・海産物問屋「荒島屋さん」が使っていたもので、「兵庫干鯛(ほしか)商」と刻まれています。

②-1 清水次郎長寄贈の石灯籠

次郎長は義理堅く、世話になった当地の侠客、白根要助に石灯籠一基を贈りました。石灯籠は今も、静岡市清水港と、この神社港の縁をつないでいます。

③ 日本海軍連合艦隊 乗員上陸の地

昭和 15 年頃まで毎年、日本海軍の連合艦隊、が伊勢湾に集結、海軍軍人たちが神社港へ上陸して伊勢神宮参拝に向かいました。参宮後水兵さんたちはこの町で羽根を伸ばして楽しんでいきました。

④ モラロジーの創始者

広池千九郎博士 修練の地

広池博士の伊勢時代、勢山文教会から今一色へ、この港に来て、海上を渡し船で通いました。船頭との逸話が残っています。

⑤ 道路元標

元・渡船場詰め所前に立てられています。町村から各地の市町村までの距離を測る原点で「道路里程標」ともいいます。白塗りの木柱に各地への里数が記入されていました。

⑥ 渡し場跡

対岸の一色町との交通機関で、天保時代に民間が始め、昭和 30 年に市営となり、無料になりました。中学生の通学にも使われていました。

⑦ 次郎長一家 勢揃いの地

清水次郎長一家が、荒神山(鈴鹿)の喧嘩で兄弟分の「吉良の仁吉」が殺されたその復讐に伊勢を訪れた時の逸話が残っています。当地の侠客、白根要介の仲介により戦わずして勝利を収めました。

⑧ 大蔵省 境界標と赤レンガ塩倉

この辺りには塩田がありました。明治 38 年に専売法が施行され、塩田は廃止。塩専売所ができ、赤レンガの塩倉は保管所でした。敷地の四隅にあった「大蔵省」と彫られた境界石表が 1 本だけ残っています。

⑨ 東照山清雲院 (於奈津でら)

徳川家康の側室「於奈津の方」が家康公の没後、菩提を弔うために建立した寺。大正 4 年にこの地に中興されました。

⑩ 侠客 白根要助の別邸

ここは正丸の離れでした。清水一家が仇討ちにと船で乗り込んだ際に、仲介に入った白根要助により戦わずして清水一家が勝利を収め、次郎長に感謝されました。

⑪ 歴史を伝える石造物 (神社港共同墓地)

- 漂泊神霊碑
- 西菅道人碑
- 大僧都法師尊頼直碑
- 白根要助の墓

⑫ 一本道の街道

松原から続く先は一本道の街道で、人家もなく街道の中程に「おすま小屋」「佐助茶屋」の二軒の茶屋がありました。

⑬ 播磨浜塩田

現在の神社小学校の場所は播磨浜という入浜式の塩田の一部でした。

⑭ さんどう道標 90 年ぶりの里帰り

三河や遠州からの道者が行き来した参宮道は七曲八折だったため、明治 19 年、直線道路を作りました。その記念に神社港と大湊道の三叉路に道標を建立しました。

⑮ 御食神社 (辰の宮)

伊勢神宮外宮の摂社であり、神社港の氏神。中世の竜神信仰に結びついて、地元では「辰の宮さん」「辰神さん」と呼ばれ親しまれています。

⑯ 旧花街通り

江戸時代から、参宮客や旅人、船乗りなどをもてなす色町として知られ、当時はこの通りの両側にいくつものお店が並んでいました。毎晩のように三味太鼓の音が鳴り響いていたといえます。